第62期定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示事項

連 結 注 記 表
個 別 注 記 表

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

株式会社ムロコーポレーション

「連結計算書類の連結注記表」及び「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第17条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.muro.co.jp>) に掲載することにより、株主の皆様を提供しております。

(連結注記表)

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 6社
- ・連結子会社の名称 北関東ブレーティング株式会社
エム・シー・アイ株式会社
ムロ ノース アメリカ インク
ムロテック オハイオ コーポレーション
ムロ テック ベトナム コーポレーション
ピーティー ムロテック インドネシア

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

該当事項はありません。

② 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

- ・主要な会社等の名称 3MT (THAILAND) CO., LTD.
- ・持分法を適用しない理由 連結純損益及び利益剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法を適用せず原価法により評価しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、ムロ ノース アメリカ インク、ムロテック オハイオ コーポレーション、ムロ テック ベトナム コーポレーション及びピーティー ムロテック インドネシアの決算日は、12月31日であります。

連結計算書類の作成に当たっては、同決算日現在の計算書類を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

- ・満期保有目的の債券 償却原価法 (定額法)
- ・その他有価証券 時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産

- ・商品 移動平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

・製品

金型

個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

その他

主として総平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

・原材料

主として移動平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

<ul style="list-style-type: none"> ・仕掛品 金型 	個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
<ul style="list-style-type: none"> その他 	主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
<ul style="list-style-type: none"> ・貯蔵品 	最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
② 重要な減価償却資産の減価償却の方法	
<ul style="list-style-type: none"> イ．有形固定資産 （リース資産を除く） 	<p>当社及び国内連結子会社は定率法、在外連結子会社は主として定額法によっております。</p> <p>ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物及び構築物 5～50年</p> <p>機械装置及び運搬具 8～17年</p>
ロ．無形固定資産	定額法によっております。
ハ．リース資産	<p>なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p>
③ 重要な引当金の計上基準	
イ．貸倒引当金	<p>当社及び国内連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。在外連結子会社は、過去の貸倒実績等に基づき必要額を計上しております。</p>
ロ．賞与引当金	<p>当社及び一部の連結子会社は、従業員の賞与支給に備えるため、夏期賞与支給見込額の期間対応分を計上しております。</p>
ハ．役員賞与引当金	<p>当社及び国内連結子会社は、役員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。</p>
ニ．役員退職慰労引当金	<p>一部の連結子会社は、役員の退職慰労金支給に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。</p>

④ 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社の資産及び負債は、在外連結子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

⑤ その他連結計算書類の作成のための重要な事項

イ. 退職給付に係る会計処理の方法 退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

ロ. 消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社は税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更

連結貸借対照表

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 2018年2月16日）に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第5号 2018年3月26日）を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前連結会計年度において「流動資産」に区分しておりました「繰延税金資産」（前連結会計年度253,962千円）は、当連結会計年度においては「投資その他の資産」の「繰延税金資産」216,034千円に含めて表示しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 18,994,634千円
(減損損失累計額を含む)

(2) 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

受取手形	11,826千円
電子記録債権	139,326千円
支払手形	11,151千円
電子記録債務	660,758千円
流動負債のその他	16,392千円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

普通株式 6,546,200株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

2018年6月22日開催の第61期定時株主総会決議による配当に関する事項

・株式の種類	普通株式
・配当金の総額	235,076千円
・1株当たり配当額	38円
・基準日	2018年3月31日
・効力発生日	2018年6月25日

2018年11月12日開催の取締役会決議による配当に関する事項

・株式の種類	普通株式
・配当金の総額	123,723千円
・1株当たり配当額	20円
・基準日	2018年9月30日
・効力発生日	2018年12月10日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの 2019年6月21日開催の第62期定時株主総会において次のとおり付議いたします。

・株式の種類	普通株式
・配当金の総額	148,467千円
・1株当たり配当額	24円
・基準日	2019年3月31日
・効力発生日	2019年6月24日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に関する取組方針

当社グループは、主に車輛関連部品等の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金の調達を銀行借入による方針です。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金も銀行借入により調達しております。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券である株式及び債券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式及び債券であり、定期的に把握された時価が経営者に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務並びに未払金は、1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金(原則として5年以内)は主に設備投資に係る資金調達であります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、含まれておりません(注2)参照)。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 現金及び預金	5,469,004	5,469,004	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,584,758	2,584,758	—
(3) 電子記録債権	1,801,956	1,801,956	—
(4) 有価証券			
満期保有目的の債券	1,463,474	1,460,970	△2,503
(5) 投資有価証券			
① その他有価証券	1,941,178	1,941,178	—
② 満期保有目的の債券	553,298	552,857	△440
(6) 支払手形及び買掛金	(877,586)	(877,586)	—
(7) 電子記録債務	(2,986,159)	(2,986,159)	—
(8) 短期借入金	(300,000)	(300,000)	—
(9) 1年内返済予定の長期借入金	(287,223)	(286,246)	977
(10) 未払金	(554,744)	(554,744)	—
(11) 未払法人税等	(318,285)	(318,285)	—
(12) 長期借入金	(175,651)	(171,448)	4,203

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金並びに (3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券並びに (5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(6) 支払手形及び買掛金、(7) 電子記録債務、(8) 短期借入金、(10) 未払金並びに (11) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(9) 1年内返済予定の長期借入金並びに (12) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額10,900千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 投資有価証券 ①その他有価証券」には含めておりません。

6. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	2,687円86銭
(2) 1株当たり当期純利益	281円53銭

7. 重要な後発事象に関する注記

(取得による企業結合)

当社は、2019年3月22日開催の取締役会において、イガリホールディングス株式会社（本社：茨城県、代表取締役 猪狩 崇）の全株式を取得して子会社化（当社の連結子会社）することについて決議し、同日付けで株式譲渡に関する契約を締結し、2019年4月1日付けでイガリホールディングス株式会社の全株式を取得しました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 イガリホールディングス株式会社

事業の内容 プラスチック加工業

② 企業結合を行った主な理由

当社といたしましては、金属プレス部品以外の自動車向け精密樹脂部品のラインナップを拡充することで既存取引先及び新規取引先に対する提案力強化につながり、いがりグループにおきましても当社の国内外の多様な基盤を活用した拡販や調達、経営や技術等の連携により、さらなる業績向上が期待できます。そして中長期的には、当社グループとしての製品・事業の多角化に伴うさらなる成長へとつなげたいと考えております。

③ 企業結合日

2019年4月1日

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更ありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

当事者間の合意により非開示とさせていただきます。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	40,544千円
-----------	----------

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(個別注記表)

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

- ・子会社株式及び関連会社株式
- ・満期保有目的の債券
- ・その他有価証券
時価のあるもの

移動平均法による原価法
償却原価法（定額法）

時価のないもの

② たな卸資産

- ・製品
金型

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

その他

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

- ・原材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

- ・仕掛品
金型

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

その他

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

- ・貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5～50年

機械及び装置 9～17年

工具器具及び備品 2～15年

② 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、夏期賞与支給見込額の期間対応分を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理しております。

(4) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更

貸借対照表

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 2018年2月16日）に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第5号 2018年3月26日）を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度において「流動資産」に区分しておりました「繰延税金資産」（前事業年度221,101千円）は、当事業年度においては「投資その他の資産」の「繰延税金資産」143,297千円に含めて表示しております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額
(減損損失累計額を含む)	15,600,981千円
(2) 保証債務
以下の関係会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。
ムロテック オハイオ コーポレーション	87,206千円
(785千米ドル)
(3) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務	
短期金銭債権	334,396千円
長期金銭債権	526,528千円
短期金銭債務	276,109千円
(4) 取締役及び監査役に対する金銭債務	33,625千円
(5) 期末日満期手形
期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれておりません。	
受取手形	11,826千円
電子記録債権	139,326千円
支払手形	11,151千円
電子記録債務	660,758千円
流動負債のその他	16,392千円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	
営業取引による取引高	
売上高	556,660千円
仕入高及びその他の営業取引	1,343,972千円
営業取引以外の取引高	179,885千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 の株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 の株式数
普通株式	359,969株	65株	一株	360,034株

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産

未払事業税	21,877千円
賞与引当金	162,764
役員賞与引当金	12,212
たな卸資産評価損	4,976
未払社会保険料	24,433
貸倒引当金損金算入限度超過額	1,301
退職給付引当金	48,044
資産除去債務	17,117
会員権評価損	2,576
投資有価証券評価損	11,407
減損損失	22,224
海外子会社みなし配当相当額	18,321
減価償却超過額	1,247
その他	10,829

繰延税金資産合計 359,335

繰延税金負債

特別償却準備金	△4,256
固定資産圧縮積立金	△558
その他有価証券評価差額金	△162,199
前払年金費用	△35,359
その他	△13,664

繰延税金負債合計 △216,038

繰延税金資産の純額 143,297

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目の内訳

法定実効税率 30.4%

(調整)

住民税均等割	0.5
受取配当金の益金不算入額	△0.1
海外子会社受取配当金の益金不算入額	△1.6
交際費の損金不算入額	0.1
法人税の特別控除額	△3.3
その他	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>26.2%</u>

7. リースにより使用する固定資産に関する注記

オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	15,840千円
1年超	590,040千円
合計	605,880千円

8. 関連当事者との取引に関する注記

子会社

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円) (注2)	科目	期末残高 (千円) (注2)
			役員の 兼任等	事業上 の関係				
子会社	ムロテック オハイオ コーポレーション	所有 直接100.0	有	資金の援助	貸付金の返済	106,242	短期貸付金	106,550
					利息の受取 (注1)	6,119	長期貸付金	126,528
					債務保証 (注3)	87,206 (785千米ドル)	流動資産 のその他	915
子会社	ビーティー インドネシア	所有 直接99.0	有	資金の援助	貸付金の返済 利息の受取 (注1)	239,580 6,929	長期貸付金	400,000

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。

(注2) 取引金額及び期末残高には消費税等は含まれておりません。

(注3) ムロテック オハイオ コーポレーションの銀行借入につき、債務保証を行ったものであります。なお、保証料は受領しておりません。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	2,530円57銭
(2) 1株当たり当期純利益	237円81銭